

第5回 豊橋市市民協働推進審議会 議事録

日 時	平成26年12月24日(水) 13:30~15:00
場 所	豊橋市役所 東館12階 東128会議室
報告者	木佐貫敦士
出席者	別紙のとおり
傍聴者	なし

1 開会

2 会長あいさつ

○議事録署名者 惣田里美委員、寺田康生委員

3 議題

(1) 協働事業評価の試行について

資料1に基づき事務局より説明。

委 員：ふりかえりシートの「×」についてはその事業について団体同士で対象項目でないところを確認し合うということか。このままの形で出してしまうと、市側は評価するけど団体側は評価しないという項目が出てくるように思う。「×」はない方がよいのではないか。

事務局：このふりかえり作業を依頼する事前の段階で、協働相手と非該当となる項目について調整してもらうように各課へ知らせる。

委 員：「企画段階」「実施段階」「事業完了後」という分け方については納得がいく内容となっている。このシートは市と団体との間の協働事業で作成するものか、団体同士の協働事業で作成するものなのか。

事務局：今回の対象とするのは市と団体との協働事業とする。

委 員：すべての協働事業について行うのか。

事務局：試行段階とするため、すべての事業では実施しない。協働関係が強い事業を中心に実施したい。

委 員：ピックアップすることにより、評価のよいところだけが集まることも考えられる。試行段階ではよいが、今後はまんべんなくいろいろな団体を選択して実施してほしい。

会 長：市民協働推進計画ではこの協働事業評価を平成24年度から実施することになっているが、今から試行という実施方法を始める形で大丈夫か。

事務局：計画上の遅れを整理しながら実施していきたい。

委 員：試行で実施した評価はどのような扱いとなるのか。

事務局：試行での実施であるが、将来の全体的な実施となる際と同様に、次年度以降の

その事業の改善材料として生かしていく。

会 長:PDCAのCにあたる部分となり、そこからどのように改善していくかというもの。場合によっては効果がなかったということで協働事業としてはなじまないという判断となるものが出る可能性もある。

委 員:事業によっては成果が出たのかどうか分からない場合もある。市と協働相手が目的・目標をしっかりと共有することが重要。

委 員:協働相手側の自己評価と市側の評価の差が大きい場合は、話し合いでお互いの目的等の認識が間違っていないかを確認し、訂正して、次年度以降の協働事業の実施に生かしていくという理解でよいか。

事務局:そのようになる。

委 員:団体側も市側の目的に沿って事業を行っているかどうかがわかっていないところが意外とあると思うので、こういう形でお互いが意見交換をする機会を設けるのはよいことである。

会 長:先ほども話題に出たが、評価の選択肢の「×」と「いいえ」にあまり差がないように思われる。「×」は本当に必要か。

事務局:もう一度事務局側で調整させていただく。また評価の公表については、試行段階のためホームページでの公表はまだ実施しない。

4 報告

(1) 第2次市民協働推進計画策定にかかるアンケート調査（中間報告）について各アンケート調査について事務局より報告。

(アンケートはすべて締め切っているが、集計が作業途中のものがあり、中間報告として事務局より説明。)

5 その他

今回は、平成27年2月4日（水）15時00分～ 開催

6 閉会

平成27年2月4日

議事録署名者

惣田 里美 ⑩

寺田 康生 ⑩

第5回豊橋市市民協働推進審議会出席者名簿

NO	氏 名	選 任 区 分
1	イワサキ マサヤ 岩崎 正弥	学識経験者 愛知大学地域政策学部教授
2	オオバ ヒロブミ 大場 博文	豊橋市社会福祉協議会から推薦 (豊橋市社会福祉協議会職員)
3	コバヤシ コ 小林 てる子	豊橋市自治連合会から推薦 (豊橋市自治連合会常任理事)
4	コバヤシ ヨシキ 小林 芳樹	公募 (梅田川フォーラム)
5	セガワ チトシ 瀬川 千敏	公募 (豊橋防災V Cの会)
6	ソウ ダ サトミ 惣田 里美	豊橋商工会議所から推薦 (豊橋商工会議所女性会会長)
7	テラダ ヤスオ 寺田 康生	市民センター指定管理者から推薦 (NPO法人 愛知ネット)
8	ヤマザキ アサノ 山崎 麻乃	国際交流協会から推薦 (CSN豊橋 (愛知大学4年))

《事務局》

文化市民部

市民協働推進課 課 長 中山 久美子
主 幹 村田 直広
課長補佐 小久保 雅司
主 査 味岡 達也
主 査 菰田 直美
主 査 中澤 浩英
主 事 木佐貫 敦士
主 事 中村 志織